

優秀賞(学生部門) 新田 颯士

僕と臨床工学技士

高校2年生の冬、私の祖父がペースメーカーを使用しての生活となりました。私は、この時ペースメーカーとはどのようなものだろう、どのような人たちがこの小さな医療機器に関係しているのだろうと疑問を持って調べ始めました。こうして知ったのが臨床工学技士でした。

臨床工学技士を知るまで、病院内で医師、看護師が活躍しているといった大まかなことしか知りませんでした。臨床工学技士の業務内容を知り、時には医師などと連携し活躍する。また、時には患者さんに使用される医療機器を始めから終わりまで保守管理をする。私は、その臨床工学技士の姿に表ではもちろんのこと裏方としても大活躍できる、そんなやりがいのある仕事は他にはないのではないかと思います。そして元々、機械系に興味があった私は、医療機器の専門医療職であり、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献する業務内容にも魅力を感じました。

祖父が病を患うまで、私は高校卒業後の進路なんて全く考えていませんでした。ですが、これを機に医療機器を通して、私の祖父が命を救われたように私も臨床工学技士となり多くの患者さんを救いたいと思い、臨床工学技士を目指すきっかけとなりました。



大学の実習では、症例を元に行った人工心肺のシミュレーションで^{だいどうみやくしゃだん}大動脈遮断などの医師との連携の大切さを学ぶことができました。実際に機器を稼働させて学ぶことが楽しくもあり、私が考えていた以上に人を救うまでの道のりも楽ではないかと講義・実習を通してよく考えさせられます。

高校2年生から4年たった今でも、臨床工学技士になることは変わりません。この春から4年生になりついに1年後に迫った国家試験に合格することを現在の目標とし、多くの患者さんの役に立てる臨床工学技士を目指し、これからも頑張りたいです。

